



すてっぴ あっぴ



「命」に向き合う

1月30日（木）に行われた道德の授業を紹介します。テーマは「命」。授業では、白血病についてとりあげ、「骨髄移植」という治療法について知りました。実際に日本で初めて骨髄移植をした方のお話を読み、自分ならドナーになれるのか？ということを考えました。また、授業の後半では笹原中学校の卒業生であり、白血病患者で家族から骨髄移植を受けた先輩の作文を読みました。作文中にあった「弟は命の恩人」。その弟さんは今、2年生にいるのだということを知りました。今日は、授業後の皆さんの感想を紹介します。

この経験は一生忘れません。ドナーになった時は何もわからず、ただ不安な気持ちだったというのは今でも覚えています。自分の他にも同じ経験をしている人がいて、今日話を聴いて「あのときと同じだな」と思います。この経験は人生の大きな財産だと思います。今までずっとお世話になっているお父さん、お母さんに感謝して、これからどんどん恩返しできるようにしていきたいです。

1 組

- ・家族が病気になり、ドナーに選ばれたら提供しようと思いました。でもやっぱり、見ず知らずの人に自分も痛い思いをして提供するのは無理だなと思いました。ドナーになるのはすごく不安だけど、お姉ちゃんを助けるためにドナーになったMさんはすごいと思いました。
- ・最初は嫌だなと思ったけど、Mさんの話を聞いて自分や兄弟、親がもし（白血病に）なってしまったら、私は自分の血液で助けることができるなら必ずします。多分、怖いと思うけれど、家族だったらしていると思います。
- ・この話を聞いて、初めはドナーになりたくなかったけれど、実際に同じ学年の友達がドナーになっていることを知って、人を助けることができるならドナーになりたいと思いました。不安もあるのに、ドナーになる人は人のために頑張っていると知って、自分もがんばろうと思いました。
- ・ドナーになった方は本当にすごいと思いました。しんどくなったり、倒れたりするかもしれないのにドナーになるなんて優しい人だと思った。手術がおわった後も、患者さんの命を心配するなんてすごいと思った。身近にドナーになった人がいてとてもびっくりした。改めて命の大切さがわかった。
- ・最初は（ドナーに）なろうとは思わなかったけれど、話を聴いてなってもいいと思いました。自分の親がもし患者だったらとおもうと、今まで支えてくれたから自分が救いたいと思いました。それに、全く知らない人でも自分にしか救えない命があるのでなってもいいと思いました。

- 今日の話を書いて初めは難しいと思って、あんまりわからなかったけれど、だんだん重い病気であるとわかるようになりました。Mさんの姉の話を書いてとても辛かったと思います。人の役に立てるようになってみたいです。
- 私にはまだ覚悟が足りていない気がするけれど、実際にどうするかはわからない。でも、ドナーになりたくてもなれない人、生きたくても自分の決断一つで生きられなくなる人がいるのかもしれないと思うと、やろうかなと思います。
- 私の経験です。母は脳の血管が切れ、一時こんすい状態となって意識のなかった時があります。母が倒れたとき、親戚全員で病院へ行きました。5人に1人は死ぬと言われて、もしもの時、延命治療をするかという話もされました。本当に怖かったのですが、私の母は普段から「私が死んだらあげられる臓器はすべて移植したい」と言っていました。だから、延命は選びませんでした。母は意識が回復しましたが、今回の話を聞いて、命と向き合う母の強さを思いました。

2 組

- 今日、授業を受ける前までは骨髄移植・献血はしんどそう、嫌だなと思っていました。ニュースで池江璃花子さんのことは知っていて、「しんどそうだな」と思っていたけれど、まだ骨髄バンクに興味を持てませんでした。しかし、今回ものすごく衝撃を受けました。それがMさんのことです。今まで話をしても、そういう話題は出なかったから、今日話を聞いて、こんなに身近にいたんだと思いました。そして、僕は少しの苦しみで1つの大きな命を救えるかもしれないと思いました。だから、将来は勇気を出してみようと思いました。
- 一度は心が揺れたけれど、その不安を乗り越えて移植をした主人公はすごいなと思いました。自分だったらその不安を乗り越えるってことはなかなかできないと思います。さらにこの学年にもドナーになった人がいるときいて、びっくりしました。普通、小さな子が移植するなんてそれだけでも怖いのに、それをしたMさんはすごいなと思いました。
- 私は今日話を聞いて、他人の命も自分で救うことができるんだと思いました。もし、私が誰かの命を救うことができるのであればドナーになりたいと思います。それは、Mさんの話を聞いたからです。話をきく前は「絶対移植なんてするわけない」「痛いのは嫌だな」とか思っていたけれど、それも「助けたい」に変わりました。
- 患者の人もドナーもとても辛いんだろうなと改めて感じました。実際に友達にこの体験をしていた人がいるなんて、すごいなと思いました。がん等の病気に家族のだれかがなったらとても辛い、と思う気持ちは共感しました。僕もどうしようって思ったので。
- 私はMさんのお姉さんを知っています。吹奏楽の先輩です。よく椋尾先生が「Mはめっちゃ上手なトランペットの人やで」と言っていました。前、演奏会を見に来てくれた時も、すごく元気だったので今日とてもびっくりしました。そういう経験があったからこそ、今のM先輩、Mさんがいるんだろうなと思います。
- ドナーを探す大変さなどがよくわかりました。4組のMさんの話も聞いて、ドナーも患者だったお姉さんも苦しい思いをして、乗り越えた人が身近にいたんだと驚きました。もし、自分がドナーだったら、今考えると怖いです。でも、今日の道徳でドナーや移植について考えるきっかけになればいいと思います。

- ・骨髄移植はニュースなどで知っていたけれど、実際にその移植の難しさや辛さを耐えて命をつなげた人が同学年にいたと知り、感動しました。人の命が救われるならしてみてもいいと思いました。けど、いざそうとなるとなかなか実行できないかもしれないと思いました。

3 組

- ・最初は怖くて嫌だったけれど、話を聴いてから、人が助かるなら少し考えてもいいかなと思いました。4組のMさんやMさんのお姉さんの作文をきいて、すごく身近にあることなんだと感じました。
- ・身近にいる友達Mさんがドナーになったと聞き、その作文も読んでどれだけ辛い思いをしているのかがわかりました。白血病になった人もドナーもどちらも辛いと思います。でも、私はドナーは辛い思いをしても死ぬわけじゃないし、なってあげたいと思いました。
- ・誰かが病気になった時には、助け合うということが大事だと思いました。自分はドナーにはなりたくありません。怖いからです。でも、それ以外のことで協力できるようにがんばりたいです。
- ・初めは、手術なんて怖くて、自分が患者でも不安があるのに、他の人のために手術をするのはなかなか決断できることじゃないと思っていたけれど、Mさんの話をきいて他の人の命が助かるならドナーになってもいいと思いました。
- ・身近な人にドナーになっている人がいて驚いた。恐怖や不安があるのにドナーになれるなんて、すごい勇気だとおもった。
- ・「なりたい」と思ったけれど、辛い思いをして…と考えたら「なりたくない」と思いました。でも、一人でも多くの方が助かればいいと思いました。白血病のことなど、ほとんど知らなかったけれど、大変重い病気で、しんどくて辛いなんて思いました。
- ・骨髄移植は私の身近にはあまり感じなかったけれど、今回の話やMさんの話をきいて、身近に思いました。助けたいと思うけれど、やっぱり私はまだなれません。でも、大人になるときにこの気持ちが変わるようになりたいです。

4 組

- ・私は最初ドナー登録をすることに対して少し抵抗がありました。でも窪田先生の話やMさんの話を聴いて患者さんの立場になってみると一秒でも早くドナーを見つけないと命が危ないし、迷っているならお願いしたい。そう思うと思いました。
- ・この話やMさんの話を聴いて、世の中には命に悩んで毎日苦しい思いをしている人々がいて、身近にも普段は言っていないけれど苦しい思いをした人がいるんだと思いました。色んなことで悩むこともあるけれど、命と向き合ってみると自分が悩むこともばからしいと思いました。そして、何も病気もない自分の命をもっと感謝しようと心の底から強く思いました。
- ・今日の授業の初め、また道徳か…ってなって、本文読んだ時とか大変やなって思って他人事みたいに捉えてたけど、Mさんのお姉ちゃんの話聴いて本当に心が痛みました。部活の時でも先生はよくM先輩の話をされていて、それだけ聴いていたら元気ではつらつとした先輩というイメージがあったけれど、今日の話を聴いてとてもたいへんな思いをしてがんばってきたんだなと思い

ました。Mさん自身も小1の時にそんな体験をして、本当にたくさんのことを経験として積み重ねてきてすごい人だなと思いました。まだ私の中でドナーになるかと聞かれたら勇気が無くて今はできないかもしれないけれど、世の中にはそんな大変な過去をもった人もいるということを知って生きていきたいです。そして、白血病で生きられなかった人の分までしっかりと生きていきたいです。

- こんな風な病気は、自分とは遠いものだと思っていたので驚きました。正直ドナーになるのはとても辛いと聞き、他の人のためにそんなことしたくないと思いました。でも病気の人やその家族にとってはドナーが大事だと知りました他の人のために（ドナーに）なろうというふうに思えるようになりたいと思いました。
- Mさんは小1でドナーになってすごいなと思いました。すごく勇気がいることだと思います。先生が話していたMさんのお母さんから聞いた話は感動しました。ドナーのことも少し考えてみようと思いました。
- いつも一緒に居るひとでも、一人一人に特別な思いや感情があり、もし自分が辛くても自分より辛い人は数え切れないくらい存在し、その人を助けるためにもまず自分の身体のことを考えずに助けることはできないと思った。だから、少しでも人の役に立てるようにしていきたいと思った。
- 自分たちの先輩に経験した方がいること、そのドナーがクラスメイトにいたことに本当にびっくりしました。Mさんが自ら話したこと、心に残っています。「小さいときなんのことかわからないけれど、お姉ちゃんのためなら助けたいと思った」「お姉ちゃんはいつも笑顔だった」「吐き気、歩けない」聞いた時、移植って本当にすごいことなんだなと思いました。
- 白血病はとてもしんどい病気なんだと思った。ドナーになるのはとても勇気がいることなんだと思った。正直自分がドナーになるかと言われたら迷います。でも、自分の血で誰かの命が救われるならいいかなと思います。それと、Mの話を聴いてとてもびっくりしました。小学4年生くらいから知り合いだけれど、初めて知った。とてもすごいと思った。Mが自分の友達であることを誇りに思います。こんな友達が身近にいるなんてしらなかった。Mはすごい！！
- 僕はMさんの話だと気づいた瞬間急に身体が固まりました。Mさんとは中1の時に会って、仲良くしていた人がまさか小学生の時に経験していたのかと思うと、本当にすごいなって思って、しかもその頃の話を話してくれて、道德の授業は今まで適当だったけれど、あらためて道德の大事さがわかった。
- 自分はこの話を聴き、気持ちが変わりました。Mは幼稚園の時から友達で、そんなことがあったとは知らなかった。今、「お前よく頑張ったな」って言ってあげたい。たくさんの方が、病気で苦しんでいる。その人やその人の家族の気持ちも考え、幸せを願いこれからも命を大切に生きていく。

ドナーになることが正解ではないです。この授業をきっかけに改めて「命」について考え、自分の「命」に向き合って、これからの皆さんの人生を過ごしてほしいと思います。この授業に協力してくださったMさん、ご家族の皆さん、ありがとうございます。